

ニボルマブ+
イピリムマブ+

CBDCA + **PEM/PTX** (ニボルマブ+イピリムマブ+
カルボプラチン+ペメトレキセド/
パクリタキセル)療法

- 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌(扁平上皮がんにはペメトレキセドは使用しない)に用いる治療です。扁平上皮がんなら、ペメトレキセドの代わりにパクリタキセルを使用します。
- 21日(3週)ごとの治療です。2コース目はニボルマブ+カルボプラチン+ペメトレキセドを投与します。
- 2コース終了後は、3週ごとニボルマブ、6週ごとイピリムマブを投与し、効果が得られている間は継続します。

治療スケジュール

(1コース目)

ニボルマブ+イピリムマブ+カルボプラチン+ペメトレキセド投与例



お薬の名前 投与量 投与時間	お薬の役割	投与期間(日)					治療中に気をつけてほしいこと	
		1	2	3	...	21		
ニボルマブ (オブジーボ®) 360mg 30分	治療のお薬 【点滴】	↓				休薬 休薬	投与中に息苦しさやかゆみ、気分不快感がありましたらすぐに教えてください。	
イピリムマブ (ヤーボイ®) 1mg/kg 30分	治療のお薬 【点滴】	↓						投与中に息苦しさやかゆみ、気分不快感がありましたらすぐに教えてください。
デキサメタゾン (デキサート®) 6.6mg 15分	吐き気止め 【点滴】	↓						
パロノセトロン (アロキシ®) 0.75mg	+							
ペメトレキセド (アリムタ®) 500mg/m ² 10分	治療のお薬 【点滴】	↓						副作用予防のため、7日前より葉酸とビタミンB ₁₂ の投与を始めます。
カルボプラチン (パラプラチン®) AUC = 5 1時間	治療のお薬 【点滴】	↓						

※2コース目は、ニボルマブ+カルボプラチン+ペメトレキセドを、1コース目と同量投与する。
※3コース目以降は、ニボルマブ240mg2週ごと+イピリムマブ1mg/kg6週ごとの投与パターンもある。



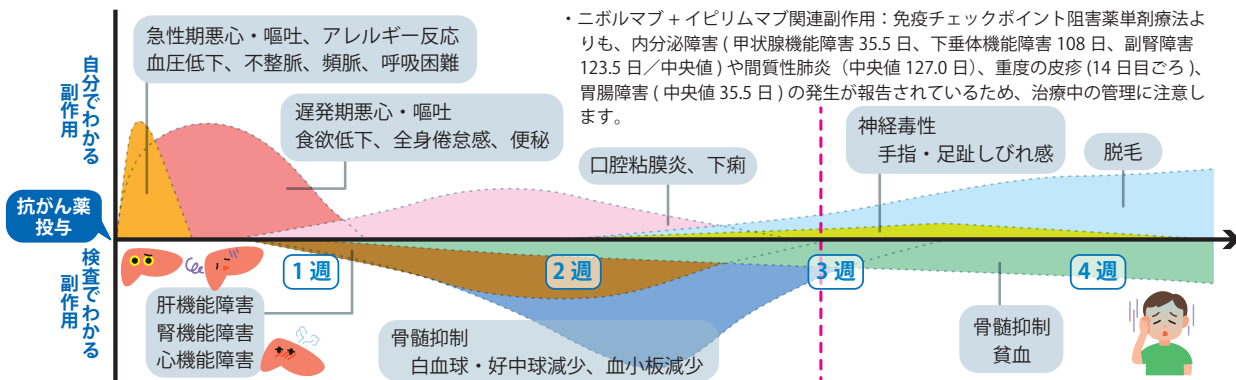
合計点滴時間 1日目(1コース目) **2時間25分**(2コース目) **1時間40分**(3コース目以降) **1時間**



注意事項

- ニボルマブ・イピリムマブの投与中に息苦しさやかゆみ、気分不快感がありましたらすぐに教えてください。

どんな副作用がいつごろみられる？



副作用を防ぎましょう



✔ 吐き気がすることがあります

「吐く」ほどではなくても、「あまり食べたくない」「味やにおいが気になる」程度の段階から、早めに対処することが大切です。我慢せずに医療者に伝え、吐き気止めのお薬や食事内容を調整してもらいましょう。

✔ 水分をしっかり摂りましょう

腎臓の機能を維持するために、水分をこまめにしっかり摂りましょう。1日に1.5～2Lが目安です。



✔ 肺炎に注意しましょう

息切れや空咳がひどくなった、だるさを強く感じるなどの症状があれば、早めにスタッフに伝えましょう。



✔ 便秘は早めに相談しましょう

治療薬の影響で、便秘にも下痢にもなる可能性があります。便秘は食欲低下や吐き気にもつながるため、治療前から便通を整え、水分をこまめにしっかり摂るだけでなく、緩下剤や整腸薬などを上手に使うことで便通をコントロールしましょう。また、1日6回を超える頻回な下痢が続いたら、病院に相談しましょう。



副作用の対策をしましょう



ペムトレキセド

▶ 感染・出血・貧血などが起こりやすくなります

感染・出血・貧血といった骨髄抑制の副作用などを軽減するために、ビタミンB₁₂と葉酸を投与します。必ず毎日飲みましょう。

ニボルマブ/イピリムマブ

▶ 倦怠感や脱力感を覚えることがあります

3コース目以降、投与が「ニボルマブ+イピリムマブ」の免疫チェックポイント阻害薬のみになっても、ある日急に、強い倦怠感や下痢、脱力感などの症状が出現する可能性があります。単剤よりも発生リスクが高いものがあるので、小さな変化も見逃さないようにしましょう。

お仕事・趣味を続けるために

たとえば

ガーデニング が趣味だったら…

骨髄抑制

- 2コース目が終わって骨髄抑制から回復してくる1カ月ごろまでは、抗がん薬の影響で、だるさ、味覚の変化に伴う食欲低下や、貧血に伴う立ちくらみなどの症状があるかもしれません。
- 庭仕事など、外で活動する際には、休憩をこまめに入れながら、急な立ち上がりや激しい運動を避け、水分摂取を心がけましょう。
- ドラッグストアなどで購入できる栄養補助食品やゼリーなど、口当たりがよく水分と栄養を一緒にとれるようなものを持ち歩くなど、工夫してみるとよいでしょう。

